

# わたしの修習時代

紀尾井町：1948-70

湯島：1971-93

和光：1994-

50期(1996/平成8年)

## 遅刻と休暇の正当事由



会員 山下 紫 (50期)

今の若い人に言うと修習に一年目も二年目もないと言われてしまうが、私は修習二年目に上の子を出産した。今やその子も二十歳。勉強はそこそこに、妊娠、出産、子育て、そして研修所の立証責任の高い壁？にぶちあたりつつも、何とか卒業した極めて個人的な私の修習生時代の思い出を披露したい。

既に結婚していた私は、前期修習の間、品川区の大井町から通っていた。毎朝、NHKの連続テレビ小説「ひまわり」は最後まで観ていると遅刻するので途中で切って家を出た。修習生だと自己紹介すると、よく修習生役の若き松嶋菜々子と比較され、女性修習生にとっては甚だ迷惑な時代であった。

さて、朝、和光駅で研修所行きのバスを逃がすと、よく違うクラスの人とタクシーを乗り合っただけで滑り込んでいた。ここまでは多くの方に経験があることだと思う。

私の場合、研修所の敷地に踏み入れた時点で遅刻確定となっており、開き直ってロータリーの車道のど真ん中を空を仰いでぶらぶらと歩いていたところ、ふと背後に気配を感じて振り返るや、「教官バス」に後を付けられていた経験がある。慌てて横に避け、教官方を先にお通ししたのであるが、うちの組の教官に聞くと、バスの中で「あれはどこのクラスの奴だ」と話題になり、「すみません、ウチのです」と代わりに謝って下さったとのことである。

不謹慎なことに、偶に電車が遅れると却ってラッキーと思う輩であった。遅れついでに和光駅のイタマでカフェラテを飲んで一服したうえ、ゆったりと研修所

入りしたこともあった。実際、電車は遅れたものの、その日40分も遅れて来たのは私だけだったが、「まあいいか今日は遅延証明があるし」と涼しい顔で遅延証明書を研修所に提出しておいた。後からかかってきた研修所からの電話に驚愕した。「遅延証明記載の遅延は17分なので、20分分の遅延の証明がありません」と。

かような自由な前期修習で、喫煙はするわ、教官の富久町の官舎で朝まで呑むわと羽目を外していたにもかかわらず、私はうっかり子供を授かり、夫に懇願されて渋々産むことになった。出産前は2か月の産休を待たずに研修を再開したいと思っていたが、産んでみると自分の子とは可愛いもので、今度は修習に戻りたくなかった。そこで思い切って研修所に電話をしてもう少し長く産休を取りたいと訴えたところ、即座に「二ヶ月以上の休暇には正当事由がありません」と却下されてしまった。留年するか2か月で復帰するか二者択一を迫られた私は、泣く泣く復帰を選択した。

当然、直ぐに保育所が見つかるはずもなく、横浜の実家に子供と戻り、後期修習は実家から片道2時間半かけて和光に通うことになった。まだ20代だったとはいえ慣れない乳児の世話で疲れ果て、再びちょこちょこ遅刻をしたらしい。研修所から、実家宛て私が家を出た後「まだ来ていない」と電話が来たことが何度かあったそうだが、当時、母は一切私にそのことを伝えず、黙って対応してくれたことを大分後から聞いた。